

南河原地区のまちづくり

1 地域の特性と課題

1 環境共生のまちづくり

(1)自然環境との共生

南河原は、まとまった緑も、宅地内の小さな緑も少ない地区です。南河原公園や幸緑道のまとまった緑と共に、公園など公共施設や幹線道路の緑の確保・維持管理、住宅地での緑化を推進する必要があります。

【多摩川】

多摩川は地区にとって、最も大きな自然の残る場所ですが、誰もが自然に親しめる場所になっていません。また、河川敷土手に沿って府中街道が通っており、地域住民が気軽に行ける場所になっていません。

【公園】

南河原公園など地区内の中小公園は、緑が少なく殺風景であり、また、家庭ごみが捨てられているなど、管理が行き届いていないところがあります。

【川崎駅西口周辺】

川崎駅西口周辺では、大規模な開発が進んでいますが、文化・産業・商業の拠点としてだけでなく、環境を重視した緑あふれる空間づくりが必要です。

【南部市場余剰地】

南部市場が縮小された場合は、余剰地を周辺の南河原公園や幸風苑と連携してまとまった緑として整備することが望まれています。

(2)地域社会との共生

川崎駅西口周辺は、川崎市の新たな「顔」としての都市空間が生み出されていますが、東芝本社、明治製菓など産業の発祥地という歴史があります。

また、その周辺には低層の住宅地が広がっており、南河原ならではの下町的な魅力が残っており、地域の歴史や下町的な魅力を活かすことが重要です。

【川崎駅西口周辺】

環境が整備され、外観はきれいになりましたが、下町的な南河原の魅力は失われています。同時に、周辺の住宅地や商店街との連続性が失われています。また、大規模商業施設の開発に伴い、交通渋滞の悪化が懸念されます。

【住宅地】

南河原地区では、2～3階程度の低層木造住宅が密集している地域があります。迷路のような路地空間は、下町的な居心地の良い、閑静な住宅地を形成していますが、緊急車両の通行を困難にしている面もあります。

(3)人と人との共生

少子高齢化社会を迎えるにあたり、福祉や教育、あるいは災害時には、地域コミュニティによる助け合いが重要です。

近年、南河原地区では大規模マンションが建設され、新規居住者が増えていますが、そういった人々とのコミュニケーションをとり、多様な人々が参加するまちづくりも重要です。同時に、区民が気軽に集い、活動できる場を整備する必要があります。

【既存施設の有効活用】

南河原地区では、町会会館や老人憩いの家など地域の人々が利用できる施設がありますが、区民には知られていません。多くの人々が利用しやすいように、利用時間、方法など管理体制の改善、情報公開の体制を検討する必要があります。また、老朽化が進む施設もあり、既存施設の改善が必要です。

【地域の拠点としての川崎駅西口】

川崎駅西口周辺では、ミュージアムなど川崎市全体の拠点としての整備は進んでいますが、地域住民が利用できる地域の拠点としての整備は行われていません。地域で活動する子育てや高齢者支援、まちづくりなどのグループが利用しやすい施設を整備する必要があります。

2 安全な生き活きまちづくり

(1)安全安心なまち

南河原地域では、木造住宅の密集地があり、地震や火災などの災害に備えて、住宅地の整備をすることが必要です。

また、近年、犯罪検挙率が低下しており、防犯灯などのハード面の整備とともに、地域コミュニティによる防犯対策が必要です。

【防災】

木造住宅が密集する地域では、狭あい道路が入り組んでおり、災害時の避難や緊急車両の通行に不安があります。

また、火災が発生した場合には、延焼による被害拡大の恐れがあります。

【防犯】

地区内には、防犯灯が少なく、道路が暗い場所があります。また、街路樹等により光が遮られ、暗い場所もあります。

西口の開発によって、地域の外から様々な人が来るようになり、不審者の判断ができなくなった一方で、警官不在の派出所が増え、いざという時の不安があります。

【ホームレス】

公園や緑道、河川敷などにホームレスが増え、子ども達を安心して遊ばせられない状況になっています。

(2)多様な賑わいのあるまち

川崎駅西口は、大規模開発によって、商業・業務・文化など様々な核となる要素を持っており、それらを活かしたまちづくりを進めることが必要です。

【文化】

ミュージア川崎の、大型音楽ホールが完成し、音楽のまちづくりが進められていますが、今後は能楽堂やシネチッタなど川崎駅周辺の施設とも連携を図り、文化の拠点の形成が必要です。

【産業】

かつて東芝の工場があった時代に比べ、賑わいが減っています。地元貢献する新たな地場産業の創出が望まれています。

【市民活動施設】

南河原地区は、地区内に市民活動の拠点となる場所がありません。また、区役所への交通も不便な地区です。

開発地区には、市民活動拠点や行政機能など、地域の生活に貢献する整備が望まれています。

(3)活力のあるまち

南河原地区には、川崎駅西口周辺の新しいまちと古くからの商店街がありますが、商店街の賑わいは失われています。両者が協力して、地区全体で賑わいのあるまちづくりを進める必要があります。

【地域商店街】

南河原地区には7つの商店街があり、かつては地域住民や周辺にあった工場で働く人々など、買い物客で賑わっていましたが、現在は、商店街の中にマンションが建設されるなど、店舗が減少しており、活気が失われています。

また、後継者がいない不採算店は相次いで閉店し、商店街の活気が失われるとともに、地域のお客も商店街を利用しなくなっています。

2 魅力あるまちづくりのために

1 まちの拠点を育む

(1)川崎駅西口周辺

川崎市の玄関・京浜地区の広域的な拠点として、市内外から人を呼ぶようなまちを育みます。

商業・文化・地場産業を核とし、川崎ならではのローカルな魅力ある町を目指します。

地域の人々が愛着を持ち、地元商店街の活性化にもつながるまちづくりを進めます。

(2)尻手駅周辺

周辺の歩行空間の確保、駅舎の高架化と合わせた駅前広場やミニ公園の確保、商店街のリニューアル等駅前街区の面的整備により、駅前の環境問題の改善をめざします。

柳町へのキャノン研究施設の進出、南部市場の地域施設等としての活用、広域拠点川崎駅西口地区との連続性の確保等により、今後、高まると予想される尻手駅とその周辺地区の潜在能力に対応して、駅前街区の機能とサービスの充実をはかり、地域拠点の形成をめざします。

2 豊かな生活を育む

(1)住宅市街地

建物の難燃化、耐震化の促進、緑化の推進、潤いのある街並みの形成、魅力ある路地空間の保全・修景、広場の確保などにより、現在の下町的な住宅地の良さを生かしながら、災害に強く、居住環境の良好な住宅地の形成をめざします。

既存の施設の活用等により、集会の場や、地域の人が集える場を増やし、人々が出会い、交流できるまちをめざします。

(2)商店街

専門店化、大型店にはない独自性、魅力づくり、地域特性への対応など各個店の努力、各商店会の活動力により、各個店、商店街独自の魅力を形成するとともに、西口商店街相互の協力により、西口開発のより良き波及効果を取り入れ、商店街の活性化、振興をめざします。

3 水と緑を育む

(1)住宅地の緑の創出

南河原地域は、まとまった緑も、宅地内の小さな緑も少ない地域である。南河原公園やさいわい緑道のまとまった緑を大切にするとともに、堀川町の開発、公園など公共施設の緑や幹線道路の緑の維持管理や緑の確保、住宅地等での緑化の推進を積極的に推進します。

(2)新たなまとまった緑の創出

堀川町の開発や、南部市場の活用に際して、まとまった緑の確保を要請していきます。これらの努力によって、緑被率市目標30%を達成をめざします。

4 みち・交通を育む

(1)歩行者を重視した道路整備

南河原地域は、西口開発に伴い整備が進行中である大宮中幸町線を除き、広域幹線道路、地域幹線道路は、ほぼ整備済みです。

今後は、幹線道路の危険箇所の改善や、歩行空間、自転車空間、緑の確保など、歩行者、自転車にとっても安全で、快適な道路づくり、地区と西口をつなぐ道路整備をめざします。

(2)西口開発に伴う渋滞対策

西口開発の進展にともない懸念される交通量の増加、渋滞、路上駐車などの交通問題を、事前に防止するため、その方策を検討し、開発者にも要請していきます。

5 安心を育む

(1)防災対策

南河原地域では、木造住宅が密集した地域があり、建物の難燃化、耐震化を促進すると共に、地区内の生活道路については、緊急車両が通行できるよう整備する。また、延焼による被害を最小限に抑えるために、建物周囲の緑化やポケットパークの整備を進めます。

(2)防犯対策

防犯ブザーを用意し、隣近所で連絡を取り合う。また、夜間に防犯パトロールを実施するなど、地域で防犯対策を進めます。

(3)地域サポート体制

地域の既存のボランティア活動と連携を図り、子育てや高齢者の福祉を地域で担う。そのため、連携を図るためのまちづくり組織を住民主体で形成します。

子どもから中学生、成人、高齢者まで、遊び場、運動の場、集まれる場など、それぞれの世代の身近な居場所を整備すると共に、世代間の交流を図ります。

警察署の移転跡地及び南部市場の一部を活用し、特養幸風苑、南河原公園、こども文化センター、南河原小学校など既存施設と連携して、子どもから高齢者までが利用、交流できる地域コミュニティ拠点を形成します。

その際は、地域住民の主体的参加のまちづくり組織が、計画づくり、拠点づくりを行い、住民自身が継続的に運営する場とします。

公立小中学校の空き教室や、営業前のお風呂屋さん、町会会館など、地域にある施設を、地域の人が利用できるような方法を考えます。

多くの人利用でき、また、利用しやすいように、申し込み方法、利用時間、地域管理など、地域にある公共施設の管理運営を改善します。

